


# すずご推薦の稼働遺産、のこころ



12月23日 逍遙 

昔の水路など殆ど想像できない、ただ地名だけが、かつて鹿児島城の外堀の1つがここにあった、という史実を語り伝えてくれる、ここ「名山堀」跡。その「名山堀」も、その後、市電を通すため、明治41年に今の市役所前辺りが埋め立てられ、残りのうちの半分（現在の朝日通側）が昭和23年に、そして最後の残りも、環境衛生問題の解消のため、昭和42年にすべて埋め立てられ、現在に至っているのだそう。その間、大正期の「名山堀」には、宴会や家族連れに船料理を提供する屋形造りのカキ船の提灯が揺れていたのだとか。また、戦後の混乱期には、離島の船便を待つ人々や市民に食料品や日用品等を販売する市場や、沢山の飲み屋も生まれたそうで、当時はきっと、今以上に昭和の匂いプンプンの、賑やかな話し声や笑いに満ち溢れた空間だったことでしょう。猫仲間にとっては、今でも最高の稼働中の餌場のはず…

時代は移り変わり、そして今、新型コロナウイルス感染拡大で、人と人との直接のコミュニケーション手段が大きな制約を受ける時代となっ…

次回「すず と 逍遙館長 それぞれの集会場、のこころ」